



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月1日

上場会社名 スターティア株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3393 URL <http://www.startia.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本郷秀之  
 兼 最高経営責任者  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 常務執行役員 (氏名) 後久正明 (TEL) 03-5339-2162  
 経営企画管掌

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家・報道関係者向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	3,684	19.2	237	△13.9	241	△14.6	144	△13.4
25年3月期第2四半期	3,090	34.6	276	210.3	283	177.0	167	191.7

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 156百万円(△5.8%) 25年3月期第2四半期 166百万円(219.5%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
26年3月期第2四半期	28	68	28	54
25年3月期第2四半期	33	67	33	21

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	4,230		3,162		74.7	
25年3月期	4,279		3,035		70.9	

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 3,161百万円 25年3月期 3,035百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
25年3月期	—	0.00	—	7.86	7.86
26年3月期	—	0.00			
26年3月期(予想)			—	7.98	7.98

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	8,160	22.9	800	21.9	800	22.0	400	2.3	79	81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	5,059,400株	25年3月期	5,012,200株
26年3月期2Q	225株	25年3月期	114株
26年3月期2Q	5,045,980株	25年3月期2Q	4,961,594株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

当社は、平成25年11月11日に証券アナリスト・機関投資家・報道関係者向け四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算補足説明資料は、説明会開催後速やかに東京証券取引所ホームページ(東証上場会社情報サービス)及び当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では堅調な民間需要を背景に緩やかな回復基調が続き、マイナス成長が続いていた欧州も持ち直しに向かう一方、アジアでは中国の成長ペースが鈍化するなど弱含みで推移しました。また、わが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景とした為替の円高是正が進むと同時に株高傾向を受けて、輸出関連企業を中心とした業績の好転や個人消費の持ち直しにより景気は緩やかに回復してきております。

このような事業環境のもと、当社グループでは、徹底した先行投資を実施することにより、当第2四半期連結累計期間における利益は前年同期割れながらも、中期3ヵ年計画の最終年度としての過去最高営業利益である8億円を計画しております。通常年度より下半期利益偏重型となることを当初より計画としておりますが、当第2四半期連結累計期間では、全事業においてフロー収益が前期比で大幅に伸長し、当第2四半期連結累計期間での当初利益予想に対して好調に進捗しております。新卒87名を含め従業員を増員し、新たに新卒研修機関であるキャリアプロデュース営業部を併設している東東京支店を設立し、またアジア市場での本格的な拠点展開の促進に向けて設立した当社100%子会社である上海思達典雅信息系统有限公司（英文名：STARTIA SHANGHAI INC.）も中国国内での営業許可を取得し営業を開始いたしました。また、台湾において電子ブック作成ソフトの販売実績のある宏馬數位科技股份有限公司（英文名：Horma Service Co.,Ltd）（以下「ホームデジタル」といいます）との業務・資本提携契約を締結しアジアでの販売も開始いたしました。また、社内システムのセキュリティ強化など積極的な事業展開を図りました。

当連結会計年度におきましては、継続的に成長を遂げていくためには、これまで積み上げてきたストック売上高の安定的・計画的な更なる積み増しを重要事項と考えるとともに、他の追随を許さない付加価値の高い独自サービスの提供を目指し、人材育成及び当社グループの競争力の源泉であるウェブソリューション関連事業の研究開発に取り組んでおります。

当社グループにおきましては、安定的な増収と過去最高益達成の年度とすべく、目先の利益だけに囚われない中長期に亘る継続的な利益基盤構築に向けて、事業ごとの収益性や成長性を分析し、将来においてどの事業に経営資源を配分するか判断し、将来への必要な投資を惜しむことのない一方で、サービス提供を通じて継続的な収入が得られるストック型ビジネスを引き続き大きく成長させる施策をとっております。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は3,684,036千円（前年同四半期比19.2%増）、営業利益は237,750千円（前年同四半期比13.9%減）、経常利益は241,724千円（前年同四半期比14.6%減）、四半期純利益は144,715千円（前年同四半期比13.4%減）となりました。

なお、セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

## (ウェブソリューション関連事業)

当第2四半期連結累計期間におけるウェブソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ウェブソリューション関連事業におきましては、電子ブック作成ソフト「ActiBook（アクティブック）」や「CMS Blue Monkey（シーエムエスブルーモンキー）」、さらにはAR（拡張現実）を自社内で簡単に作成できる新サービス「ActiBook AR COCOAR（アクティブック エーアールココアル）」（以下「COCOAR」といいます）を始めとしたWebアプリケーションの企画、開発、販売に留まらず、Web制作やアクセスアップコンサルティング、システムの受託開発・カスタマイズといった顧客の売上増大や業務効率アップを目的としたWebアプリケーションに関するトータルソリューションを提供しております。

当第1四半期連結累計期間に過去最多の新卒36名の受け入れを行ったことにより、一時的に販売部門への負荷が増加するなど人材育成等の先行投資が必要となりました。しかし、当第2四半期連結累計期間から戦力化してきている状況であるため、改善傾向にあります。

ActiBookに関しましては、メインターゲットである印刷業界向けの開発に加え、社内文書の電子化を見据えた「CLM（クローズド・ループ・マーケティング）」を強化するため、積極的な投資にて機能拡張を行っております。2013年2月より新たに投入したActiBookの新プランである「ActiBook Cloud Suite（アクティブック クラウドスイート）」（以下「ActiBook CS」といいます）を切り口に、印刷業界への更なる導入を推進したところ、前連結会計年度で49社の導入実績でしたが、当第2四半期連結累計期間で161社の導入を実現しております。しかし、ActiBook CSを主力で販売することで、1契約あたりの単価が下がり、フロー収益が伸び悩んでいる状況です。こちらに対しては、ActiBook CSで獲得した顧客に対して、プランアップやCOCOARなどのアップセルを行っていくことで、1顧客あたりの単価アップを実現し、フロー収益の改善を図ってまいります。

なお、COCOARに関しましては、ActiBookなどをご採用頂いている既存顧客に対してのアップセルが堅調に推移しております。（COCOAR導入顧客の約33%が既存顧客へのアップセル）

また、Web事業につきましては、アクセスアップコンサルティングを強化したことにより、ストック売上高が期初と比べて180%アップしております。このアクセスアップコンサルティングのノウハウをWeb制作のフロー収益を稼ぎだす分野にも展開し、中規模層の単価の高いWeb制作案件を受注できるように体制を強化しております。

その結果、ウェブソリューション関連事業の当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は861,031千円（前年同四半期比28.4%増）、セグメント利益（営業利益）は79,183千円（前年同四半期比31.9%増）となりました。

## (ネットワークソリューション関連事業)

当第2四半期連結累計期間におけるネットワークソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ネットワークソリューション関連事業におきましては、クラウド関連サービス、ネットワーク機器販売、インフラサービスを組み合わせたトータル的なソリューションを提供しております。

ゲートウェイサービス「Digit@Link マネージドゲート（デジタルリンク マネージドゲート）」、「Digit@Link ネットレスQ（デジタルリンク ネットレスキュー）」に関しましては、営業人員の増員を行い、堅調に販売件数が伸びております。

当連結会計年度よりゲートウェイサービスの既存顧客に対して、本格的にインテグレーション

による重ね売りのアプローチを開始して大型の案件も含め、件数が順調に伸びてきております。社内サーバの老朽化によるリプレイス、セキュリティ対策の向上など、企業のIT設備投資が積極的になっている事が感じられる結果となっております。インテグレーションについては、立ち上がりの好調な結果を受けて、エンジニアの増強を行い更なる拡大をしていきます。

クラウド関連サービスに関しましては、春の大型展示会での集客効果があり「Digit@Link セキュアSAMBA（デジタルリンク セキュアサンバ）」の件数は堅調に伸びた結果となりました。データセンターの安定稼働による設備投資も継続して行っております。

その結果、ネットワークソリューション関連事業の当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は980,496千円（前年同四半期比14.7%増）、セグメント利益（営業利益）は157,532千円（前年同四半期比6.2%減）となりました。

#### （ビジネスソリューション関連事業）

当第2四半期連結累計期間におけるビジネスソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ビジネスソリューション関連事業におきましては、営業効率の強化策として実施した営業組織の販売手法別組織への再編が3年目を迎え、更なる業務効率向上を行ってまいりました。当第2四半期連結累計期間におけるビジネスソリューション関連商材につきましては堅調に推移いたしました。

ビジネスホン販売に関しましては、多様化する顧客のニーズに応え快適な通信環境の構築とワークスタイルの変革を推進していくことを目指し、従来のレガシー型と市場ニーズの高まるクラウド型IP電話サービスを展開しております。中でもレガシー型の製品の販売においては、リース満了を迎える既存顧客のリプレイス需要の高まりを受けて順調に売上を伸ばし堅調に推移いたしました。

MFP（Multi Function Printer 複合機と同称）販売に関しましては、横浜支店に続き、これまでアプローチしきれていなかった東京都地区に支店を設立し、同地区の既存顧客に対する販売が好調だった事、また新卒研修機関として同支店に併設されたキャリアプロデュース営業部の運営により、新卒の早期育成が実現できた事により堅調に推移いたしました。

ソフトバンクテレコム株式会社が提供する電話サービスであるおとくラインの受付案内、登録作業、現地調査等の加入に必要な手続きをソフトバンクテレコムパートナーズ株式会社に代わって行う回線接続受付に関しましては、特に2012年10月に新店した横浜支店の販売が好調だった事、またテレフォンアポインターの導入により営業人員の生産性向上に寄与した事もあり、堅調に推移いたしました。

その結果、ビジネスソリューション関連事業の当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,842,509千円（前年同四半期比17.7%増）、セグメント利益（営業利益）は26,273千円（前年同四半期比60.9%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ①資産及び純資産の状況

## (イ) 資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産は4,230,574千円となり、前連結会計年度末と比較して48,636千円減少いたしました。その主な内容は、固定資産の増加140,504千円がありましたが、その一方で、現金及び預金の減少90,624千円や売掛金の減少111,563千円があったことなどによるものであります。

## (ロ) 負債

負債の部は1,067,729千円となり、前連結会計年度末と比較して175,626千円減少いたしました。その主な内容は、買掛金の減少24,637千円や未払法人税等の減少77,687千円があったことなどによるものであります。

## (ハ) 純資産

純資産の部は3,162,844千円となり、前連結会計年度末と比較して126,990千円増加いたしました。その主な内容は、四半期純利益144,715千円の計上がありましたが、その一方で、株主総会決議による配当金の支払39,395千円があったことなどによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の四半期末残高は1,978,316千円（前年同四半期比7.7%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

## (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは126,569千円の収入となりました（前年同四半期は226,381千円の収入）。その主な内容は、税金等調整前四半期純利益249,923千円の計上や減価償却費115,873千円の計上がありましたが、その一方で、法人税等の支払額191,571千円があったことなどによるものであります。

## (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは21,905千円の収入となりました（前年同四半期は345,338千円の支出）。その主な内容は、固定資産の取得による支出176,973千円、差入保証金の差入による支出2,249千円があったことなどによるものであります。

## (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは29,835千円の支出となりました（前年同四半期は83,497千円の支出）。その主な内容は、配当金の支払額39,395千円があったことなどによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループでは、顧客満足度の向上を最重要課題と位置づけ、新規商材やサービスの提供だけに留まらず、昨年に引続きワンビリングで提供できるソリューションなどの商材ラインナップを拡充し既存顧客の囲い込みを一層強化するとともに、創業以来最大のストック型サービス拡販の強化年度とし、年次当初より中長期に向けた更なる収益体制の強化を図ってまいります。

当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、平成25年5月10日に発表いたしました当第2四半期連結累計期間における連結業績予想よりも売上高、利益共に上方に乖離し好調に推移し計画を上回ったため、平成25年10月25日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表いたしました。

なお、平成26年3月期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の通期連結業績予想につきましては、前回発表（平成25年5月10日公表「平成25年3月期 決算短信」）の予想数値から変更はありません。

また、業績予想につきましては、現在入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。従いまして、本業績予想のみに全般的に依拠して投資判断を下すことは控えられますようお願いいたします。また、実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,068,940	1,978,316
売掛金	1,033,020	921,457
原材料及び貯蔵品	35,314	55,810
その他	312,589	301,954
貸倒引当金	△53,287	△47,603
流動資産合計	3,396,577	3,209,935
固定資産		
有形固定資産	100,308	106,012
無形固定資産		
のれん	42,933	36,533
その他	284,746	371,706
無形固定資産合計	327,679	408,239
投資その他の資産	450,063	504,304
固定資産合計	878,051	1,018,556
繰延資産	4,581	2,082
資産合計	4,279,210	4,230,574
負債の部		
流動負債		
買掛金	453,162	428,525
未払法人税等	189,424	111,737
賞与引当金	131,912	154,626
その他	468,356	372,339
流動負債合計	1,242,856	1,067,229
固定負債		
その他	500	500
固定負債合計	500	500
負債合計	1,243,356	1,067,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	789,290	793,520
資本剰余金	930,452	934,682
利益剰余金	1,324,805	1,430,125
自己株式	△78	△215
株主資本合計	3,044,468	3,158,113
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9,607	△864
為替換算調整勘定	993	4,360
その他の包括利益累計額合計	△8,614	3,496
新株予約権	—	1,235
純資産合計	3,035,854	3,162,844
負債純資産合計	4,279,210	4,230,574

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	3,090,975	3,684,036
売上原価	1,467,876	1,838,167
売上総利益	1,623,098	1,845,869
販売費及び一般管理費	1,346,925	1,608,119
営業利益	276,172	237,750
営業外収益		
受取利息	411	929
持分法による投資利益	2,160	6,431
引継債務償却益	4,437	4,938
その他	3,074	3,437
営業外収益合計	10,085	15,736
営業外費用		
支払利息	576	—
為替差損	—	9,263
株式交付費償却	2,498	2,498
営業外費用合計	3,075	11,762
経常利益	283,182	241,724
特別利益		
投資有価証券売却益	—	8,198
特別利益合計	—	8,198
税金等調整前四半期純利益	283,182	249,923
法人税、住民税及び事業税	125,265	105,740
法人税等調整額	△9,163	△533
法人税等合計	116,102	105,207
少数株主損益調整前四半期純利益	167,079	144,715
四半期純利益	167,079	144,715

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	167,079	144,715
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△669	8,743
為替換算調整勘定	32	1,255
持分法適用会社に対する持分相当額	—	2,111
その他の包括利益合計	△636	12,110
四半期包括利益	166,443	156,825
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	166,443	156,825
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	283,182	249,923
減価償却費	100,504	115,873
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,559	△5,683
賞与引当金の増減額(△は減少)	15,022	22,714
受取利息及び受取配当金	△1,161	△1,409
支払利息	576	—
為替差損益(△は益)	—	9,263
持分法による投資損益(△は益)	△2,160	△6,431
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△8,198
売上債権の増減額(△は増加)	94,065	111,563
たな卸資産の増減額(△は増加)	△10,196	△20,496
仕入債務の増減額(△は減少)	△13,721	△24,637
未払金の増減額(△は減少)	△34,744	△84,005
未払消費税等の増減額(△は減少)	△12,729	△28,915
その他	△45,570	△13,256
小計	374,627	316,302
利息及び配当金の受取額	1,151	1,838
利息の支払額	△545	—
法人税等の支払額	△148,852	△191,571
営業活動によるキャッシュ・フロー	226,381	126,569
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200,000	—
定期預金の払戻による収入	—	200,000
有価証券の取得による支出	—	△50,000
有価証券の償還による収入	—	50,000
固定資産の取得による支出	△110,343	△176,973
固定資産の売却による収入	—	19,342
投資有価証券の取得による支出	—	△5,820
投資有価証券の売却による収入	—	27,343
関係会社株式の取得による支出	—	△32,748
差入保証金の差入による支出	△32,181	△2,249
差入保証金の回収による収入	4,920	745
その他	△7,733	△7,733
投資活動によるキャッシュ・フロー	△345,338	21,905
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△58,400	—
自己株式の取得による支出	△64	△136
配当金の支払額	△27,853	△39,395
ストックオプションの行使による収入	2,820	8,460
新株予約権の発行による収入	—	1,235
財務活動によるキャッシュ・フロー	△83,497	△29,835
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△9,263
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△202,454	109,375
現金及び現金同等物の期首残高	2,040,136	1,868,940
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,837,682	1,978,316

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1、2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ウェブソリ ューション 関連事業	ネットワー クソリユー ション関連 事業	ビジネスソ リューショ ン関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	670,710	855,127	1,565,136	3,090,975	—	3,090,975
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	126,245	226,147	352,393	△352,393	—
計	670,710	981,372	1,791,284	3,443,368	△352,393	3,090,975
セグメント利益	60,023	167,954	67,135	295,113	△18,941	276,172

(注)1 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去352,393千円であります。

2 セグメント利益の調整額△18,941千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△18,941千円であります。

3 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1、2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ウェブソリ ューション 関連事業	ネットワー クソリユー ション関連 事業	ビジネスソ リューショ ン関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	861,031	980,496	1,842,509	3,684,036	—	3,684,036
セグメント間の内部売上 高又は振替高	393	119,555	262,617	382,566	△382,566	—
計	861,425	1,100,051	2,105,126	4,066,603	△382,566	3,684,036
セグメント利益	79,183	157,532	26,273	262,990	△25,239	237,750

(注)1 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去382,566千円であります。

2 セグメント利益の調整額△25,239千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△25,239千円であります。

3 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。